



IAF活動報告

公益財団法人 日本適合性認定協会
認定センター
中川 梓



報告項目

- IAFの活動
- MLA(相互承認 Multilateral Recognition Arrangement)
- IAF報告～総会、TC(技術委員会)



IAF (International Accreditation Forum)

- 1993年発足
- 適合性評価を認定する機関および関係機関の国際組織
- マネジメントシステム認証、製品認証、要員認証、GHG妥当性確認/検証等の分野を取り扱う。
- 目的
 - 業務にふさわしい能力を持ち、利害の抵触がない認証機関のみを認定する。
 - 認定機関間の技術的レベルを整合し、相互承認(MLA)を行う。



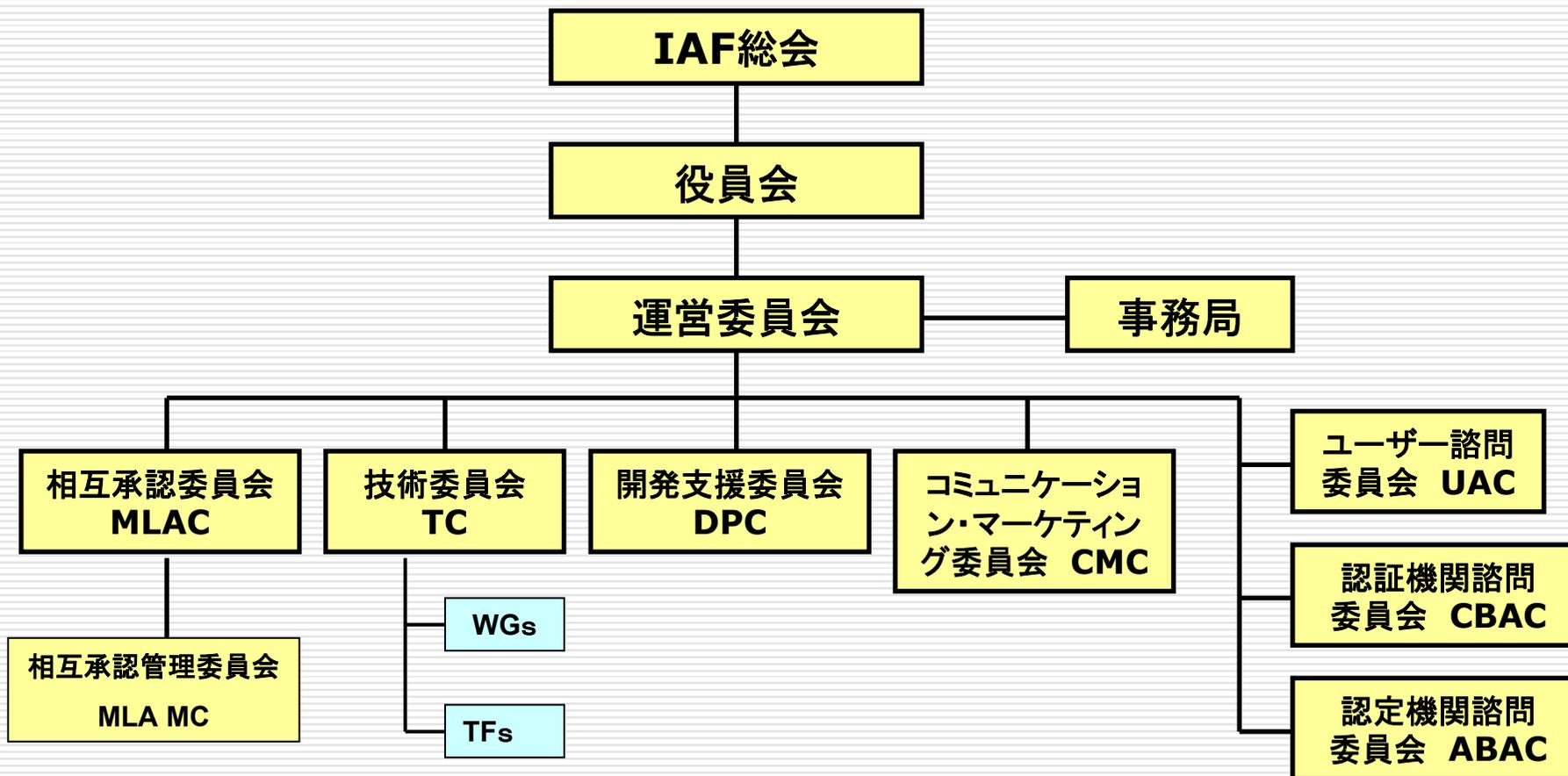
IAFメンバー

- 6地域グループ
 - AFRAC(アフリカ)、ARAC(アラブ諸国)、IAAC(南北アメリカ)、EA(ヨーロッパ)、PAC(太平洋地域)、SADCA(南アフリカ)
 - 認定機関メンバー
 - 69機関。うち59機関がMLAメンバー。
 - 関連団体メンバー
 - 17機関。認証機関、産業団体、スキームオーナー等
 - オブザーバー

 - 協力関係：ISO、ILAC(国際試験所認定協力機構)
-

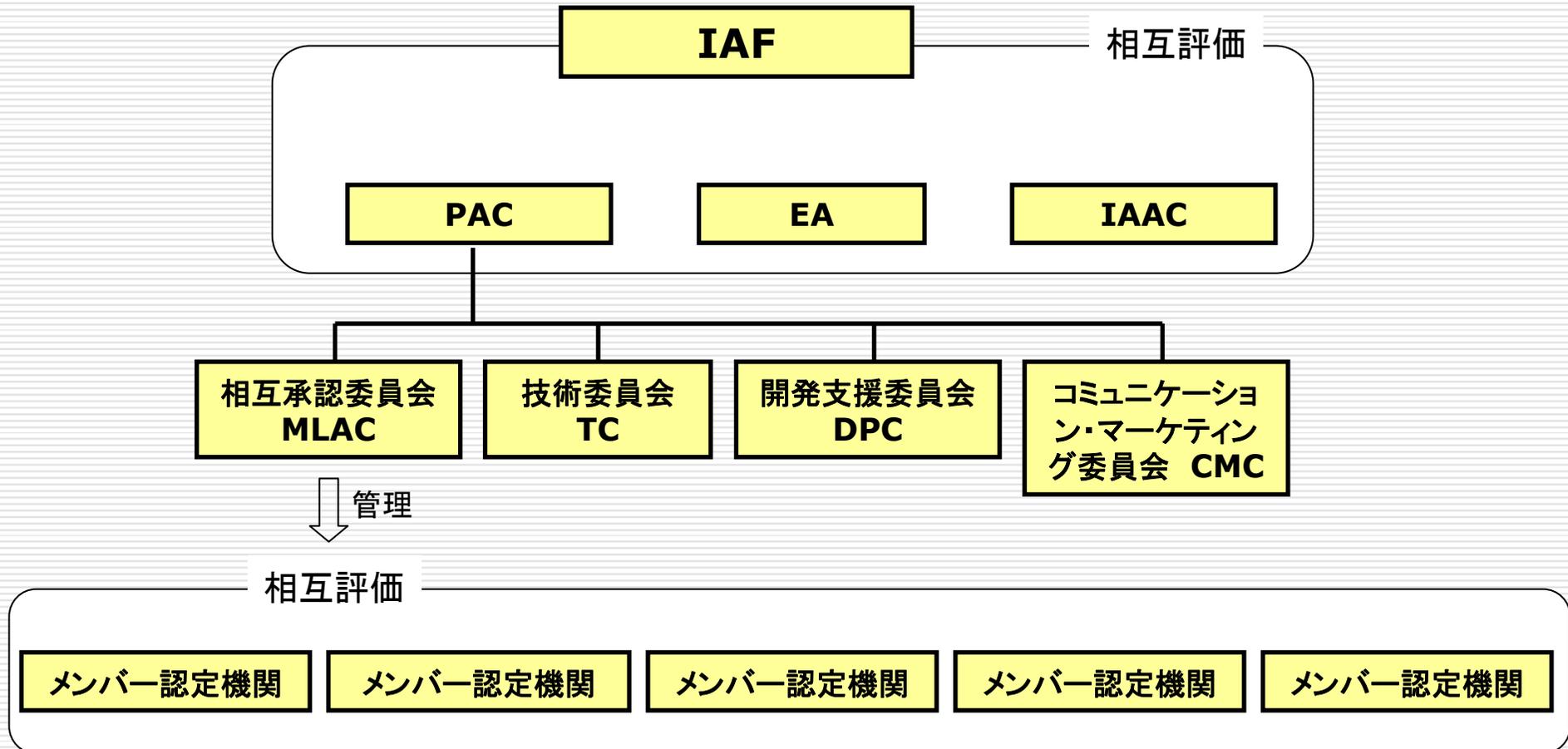


IAFの組織構造





IAF及び地域グループによる相互承認の管理





MLA (相互承認 Multilateral Recognition Arrangement) ～5層の区分

レベル1	認定機関に対する要件:ISO/IEC 17011及びIAF指針	● 認定業務が、互いに同等 ● Peer Evaluationで評価
レベル2	認定活動の種類: 認証機関 (MS、製品、要員)、検査機関など	
レベル3 メインスコープ	適合性評価機関に対する要件:ISO/IEC 17065 (製品)、ISO/IEC 17020 (検査)、ISO/IEC 17021 (MS)、ISO/IEC 17024 (要員) など	● 認証機関としての能力が同等に信頼できる ● 要員のMLAを近々開始
レベル4 サブスコープ	分野特有の規格:ISO/IEC 27006 (ISMS), ISO/TS 22003 (FSMS) など	
レベル5 サブスコープ	適合性審査に用いられる規格:ISO9001, ISO14001, ISO13485, ISO/IEC27001, 製品規格 (GlobalGap等) など	● 認証が同等である ● ISMS、FSMSのMLAを近々開始



PAC MLA

- FSMS/ISMSに関するMLA
 - 既に相互評価を開始。
 - FSMS:MLA調印済の認定機関あり。
 - ISMS:相互評価中

- 要員に関するMLA
 - 近々に開始予定



IAF総会での主な決議事項

- ISO/IEC TS 17021-3:2013
 - 認定基準としての承認、2年間の移行期間
- ISO/IEC 27001:2013
 - 認証の移行期限を規格発行後、2年とする。
 - 規格発行後1年以降は、新規の認証は新規格による。
- ISO/TS 22003:2013
 - 認定の移行期限を、規格発行後3年とする。
- ISO 9001:201X
 - 認証の移行期限を規格発行後、3年とする。
 - 認証機関は、認証組織にできるだけ早く移行にとりかかるように促すべき。
- GlobalG.A.P
 - 相互承認の範囲に入れる。



認定機関間の不一致

□ IIOCより問題提起

- 認定機関の不一致があるとの問題提起があり、MLA委員会と技術委員会(TC)がジョイントで、Task Force (JTF)を結成することになった。
- IAF傘下の各地域グループは、JTFに代表者を出す。

IIOC: Independent International Organization for Certification



IAF TC (技術委員会)

□ 活動

- IAF文書の開発/維持/改訂を行う。適合性審査を一貫性のあるものにすることを目的
- 必要なIAF文書を開発するために、関連する利害関係者のグループを形成する
- IAF外での認定規格やその他類似文書の開発をモニターし、IAFとして考慮あるいは開発に参加するかどうかを決める
- IAF相互承認の運用から生じた問題を含め、IAF文書の適用に関する推奨を行う

□ 年2回開催

- 総会開催時およびTC会議のみ
- タスクフォース/ワーキンググループ会議および全体会議



IAF文書の種類

- MD: Mandatory Document(基準文書)
 - 認定機関が、認定を一貫性をもって同等の方法で実施できるように定めるもの。
 - 要求事項
- ID: Informative Document(参考文書)
 - IAFメンバーが認定スキームを開発/改善するための情報を提供する。



主なタスクフォース(TF)/ワーキンググループ(WG)

- WG
 - マネジメントシステム認証(ISO/IEC 17021)
 - 製品認証(ISO/IEC 17065)
 - 要員認証 (ISO/IEC 17024)
 - 森林認証
 - ISMS (ISO/IEC 27001)
 - ITSMS (ISO/IEC 20000)
 - ISO13485(医療機器QMS)
 - 食品
 - GHG及びエネルギー



主なタスクフォース(TF)/ワーキンググループ(WG)

- TF
 - 認証機関のパフォーマンスの指標
 - EMS認定範囲
 - サンプルングが適用されない複数サイト認証
 - 認定審査員の力量
 - MD5改訂(QMS/EMS審査工数に関する基準文書)
 - 認定審査における立会い
 - フランチャイズ/下請負
 - 偽認証



マネジメントシステム認証に関するWG

□ WGの概要

- MS認証の信頼性向上のために設立
- MS認証に関する事項を広くカバー

□ 今回の議論～認定機関間の不一致

- IIOCからの問題提起を受け、各認定機関が独自のガイダンスや追加基準を作っているかどうかの調査を実施中。
- ➔ MLA委員会とジョイントでTFを作り、本件に対応する。



マネジメントシステム認証に関するWG

- 今回の議論～産業特有の認証プログラムに関するTFの提案(Industry Specific Certification Programme: ISCP)
 - 産業特有の認証プログラムが広がり、様々な地域、複数の認定機関が関与するようになり、互いに矛盾することもある。これを避けるために、認定機関に対する指針を開発してはどうか。
 - この問題はMSに限定されないので、独立したTFを結成。
- 今回の議論～ ISO9001改訂に伴う認証の移行
 - 認証の移行期限を規格発行後、3年とする。
 - 認証機関は、認証組織にできるだけ早く移行にとりかかるように促すべき。
 - TFを結成し、TC176とリエゾンして、認証移行関連事項に取り組む。



食品に関するWG

□ これまでの活動

- FSMS(ISO22000)認証に対しIAF相互承認(MLA)を拡大するために活動
 - 認定審査に関与する要員の力量、組織審査立会のサンプリングに関するIAF文書案を作成
- ISO22000に関するMLA拡大に向けての活動を終了し、議論の対象を、ISO22000も含め食品全般に拡大。



食品に関するWG

□ 今回の議論

- 食品安全に関する期待される結果(Expected outcome)
 - ISO9001/ISO14001で作成されたものと同じく、食品安全に関するものを作成する予定。
 - ISO22000認証だけではなく、その他のスキームもカバーする予定。
- ISO/TS 22003改訂に伴う認定の移行
 - 移行手順を示した参考文書を作成
 - 移行期間を3年とする提案
 - ISO/IEC 17021改訂開始の影響
- USA Food Safety Modernization Act (FSMA): 米国食品安全強化法
 - IAFより第三者認定・認証の活用を促すようコメントすべき



ISMSに関するWG

□ WG設立の経緯と目的

- IAF相互承認(MLA)を、ISMS(ISO/IEC 27001)に拡大することを決定(2009年10月)。
- MLA管理委員会議長からの要請によりWG設立。
- MLA拡大にあたり、IAF文書の必要性を検討し、必要な場合開発する。

□ これまでの議論

■ IAF文書の必要性の検討

□ 認定範囲

- 認定範囲を定めず(スコープレス)、ISO/IEC 27006の7.1.1.1の力量分析に関するIAF文書を開発する。

□ 認定機関の力量

- IAF基準文書の作成



ISMSに関するWG

□ 今回の議論

■ 認定機関の力量

- IAF基準文書案を完成し、IAF内投票のプロセスに進めることになった。

■ ISO/IEC27001:2013への認証の移行に関する提案

- 2年の移行期間
- 規格発行後1年以降は2013年版で認証を行うこと

■ ISO/IEC 27006改訂に向けてのISOへのインプット

- ISO/IEC JTC1/SC27/WG1とリエゾン
- SC27/WG1より下記に関するコメント依頼あり
 - 附属書C(審査工数)
 - IAF基準文書/参考文書の取り込み



EMS認定分野に関するTF

□ 目的

- EMSの認定範囲を検討する。

□ これまでの議論

- 現行の運用は、QMSと同じ39分類、リスクによる分類、スコープなしに分類される。多くの認定機関が39分類を採用。
- 現行の運用を大きく変えることなく、シンプルで理解しやすい分類が望ましい。
- ➔ IAF ID1(39分類)を基本とし、リスクレベルを示す形の提案をする。
- ➔ IAF ID1にEMS部分を追加する形の改定を行った。



GHG及びエネルギーに関するWG

□ WGの概要

- 今回より活動範囲を拡大し、エネルギーを含める。
 -
- IAF MD6 (ISO14065の適用に関する基準)を開発

□ 今回の議論

- 新基準を開発中：認定機関に対する要求事項
- ISO14065改訂に伴う認定の移行：技術的な変更はないので、処置不要。
- MLA拡大の提案



サンプリングが適用されない複数サイト組織の認証に関するTF

□ 目的

- 複数サイトサンプリング技法が適用できない複数サイト組織の認証をどのように取り扱うかを議論。
- MSを対象とするIAF MDを作成する。

□ これまでの議論

- 航空宇宙QMSの認証構造(multi-site、campus、several site、complex)を参考として検討を開始。しかし複雑である上に、円滑な運用は未だ難しい状況。
- 組織の形態は多様であり、一時的サイトが重要な組織もあるため、従来の「サイト」の概念で審査を計画するのは不適切な場合もある。
- いかに審査の計画を行うか、計画にあたり十分な情報を集めることができるかが重要。
- ➔ 出発点として、複数サイト組織の審査を計画するにあたり、取り上げるべき事項を認証のプロセスに沿って確認し、それに基づき文書案を作成することとする。



サンプリングが適用されない複数サイト組織 の認証に関するTF

□ 今回の成果

- 原案が完成し、文書発行のプロセス(コメント募集)に進む
- 文書発行後、IAF MD1との合体を行い、パート1: サンプリングが認められない場合、パート2: サンプリングが認められる場合に、再構成することになった。



認定審査における立会いに関するTF

□ 目的

- 認定審査における立会いに関する規定を開発する。

□ 主な議論

- 立会いの手順は各認定機関で様々。
- EAでも規定を開発中。TFではこの内容をもとに議論。
- 各認定機関の方針/手順に関する情報を集め、今後の議論の参考にする。